


研究者総覧：李 澤熊 (LEE, Tackung)

氏名	李 澤熊 (LEE, Tackung)	
職名	准教授	
所属講座	日本語文化専攻現代日本語学講座	
学位（専攻分野）	博士（文学）・名古屋大学	
メールアドレス	leetack@ecis.nagoya-u.ac.jp	
個人のホームページ	http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/nichigen/gendai/lee.html	
研究分野	日本語学（意味論）	
	日韓対照研究	
	日本語教育	
現在の研究テーマ	現代日本語の類義語分析、韓国人日本語学習者のための日韓対照言語研究	
所属学会	日本語教育学会	
	日本認知言語学会	
	日本語文法学会	
主要著書・論文	2001年06月「副詞(的機能を持つ表現)の意味分析——思わず、無意識に、我知らず、知らず知らず、いつの間にか、いつしか」、『日本語教育論集 世界の日本語教育』第11号, pp.179-193, 国際交流基金日本語国際センター.	
	2002年10月「非意図的であることを表す副詞(的機能を持つ表現)の意味分析——うっかり(と)、うかうか(と)、うかつに、うかつにも」、『日本語科学』第12号, pp.153-168, 国立国語研究所.	
	2003年01月「副詞の類義語分析——どことなく、何となく、それとなく」、『日本語教育』第116号, pp.69-78, 日本語教育学会.	
	2008年09月「形容詞『正しい』の意味分析」森雄一・西村義樹・山田進・米山三明編『ことばのダイナミズム』, pp.155-170, くろしお出版.	
	2010年05月「皆／すべて／全部の意味分析——統合的スキーマと離散的スキーマの観点から」、『日本認知言語学会論文集』第10巻, pp.335-342, 日本認知言語学会.	
自己紹介文	<p>日本語を学習者の視点で研究している。具体的なテーマとしては、留学生が日本語を学ぶ際に難題とされる分野の一つである意味分析を行っている。現在は語彙・文法項目を題材にした類義表現の分析に取り組んでおり、日本語教育への効果的な応用、特に実用的な語彙・文法指導の方法を探っている。以下、いくつかの分析例を紹介する。</p> <p>まず、「さり気なく」と「それとなく」は「意図を持って行う行為」</p>	

の場合に用いられる。ただし、「それとなく」の場合の行為は「相手や周囲に（明確ではなく）間接的に示す」ものであるのに対して、「さりげなく」の場合の行為は「相手や周囲に目立たないように（何か特別な意味を持っていると思われないうに）する」ものである。



韓国人留学生サッカー同好会

- (1) ぼくは子供に画の技術を教えない。ぼくはさりげなく（それとなく）ほかの話をして子供がつよいイメージを得るまで画から遠ざける。次に、「知らず知らず」と「いつの間にか」は「話し手がある事柄の変化に気づかない」という共通の意味特徴を持っているが、「知らず知らず」は「変化の過程（プロセス）」に注目する場合に用いられ、「いつの間にか」は「変化の結果」に注目する場合に用いられる。
- (2) 面白い小説だと、まるでこちらが登場人物になったような気にさせられる。美しい姫君が物思いに沈んでいる情景など読むと、知らず知らず（いつの間にか）、本当にあることのようにひき入れられてしまったりしてね。

受験生へのメッセージ

非母語話者が日本語（の意味）を研究する際には、様々な難題にぶつかる。その中でも一番難しい問題はやはり、内省判断、つまり、日本語の表現が自然かどうかを瞬時に判断することである。このように非母語話者にとって大変な研究領域



授業風景

であるにもかかわらず、研究を続けているのは、これは非母語話者が日本語を研究することのメリットと言えるかもしれないが、いわゆる日本語を客観的な立場から観察し、分析・記述することができるからである。この客観的な立場から観察できるということは、普段日本人がなかなか気づきにくい日本語の様々な現象に気づくことができるということである。

さて、日本人にとって日本語は無意識のうちに身につけた、いわゆ

る「母語」である。つまり、空気と同じようなものだと考えられる。だから、日常生活において当たり前のものをわざわざ意識するということは、普通はしないと考えられる。しかし、日本語学・日本語教育学の世界ではその当たり前のようなものがたびたび問題になったりする。普段日本人がなかなか気づきにくい日本語の様々な現象に気づくということは、この学問分野では非常に大事なことである。そういった現象に気づくためには、日本語を客観的な立場から観察する力を身につける必要がある。そういったことを常に念頭におきながら日本語に接してほしいと思う。